

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972500577		
法人名	社会福祉法人 香南会		
事業所名	グループホーム ひのきの里		
所在地	高知県高岡郡津野町黒川740番地6		
自己評価作成日	令和元年7月19日	評価結果 市町村受理日	令和元年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当事業所は国道から川を隔てた高台の中学校跡地にあり、母体法人のデイサービス事業所と隣接しています。茶畑や民家も近く、利用者がこれまでの生活を継続できる自然環境にあります。</p> <p>事業所の理念にある「共に支えあい、笑顔の見える、穏やかな生活」を実現するため、保育所や小中学校、地域住民とのふれあいを大切にしており、地区の秋祭りや小学校で行われるふるさと祭りへ参加し、保育園児、小中学生やボランティアの訪問を受ける機会を増やして、交流を図っています。また、事業所行事として春祭りを開催し、地域住民を案内し、認知症高齢者専門の事業所として広く知ってもらう機会をつくっています。</p> <p>四季毎に行事を企画し、利用者に季節の移ろいを感じてもらえるような支援や雰囲気を提供しています。職員一同、その人らしい暮らしの実現に向け、利用者本位の支援の向上に努めています。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_007_kihon=true&ljgwosvoCd=3972500577-00&ServiceCd=720
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	令和元年8月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>自然環境に恵まれ、地元住民には懐かしい中学校跡地にある事業所で、同一敷地には母体法人のデイサービスセンターが併設されている。中庭には畑があり、野菜や作物を利用者が一緒に作り、利用者同士の交流の場ともなっている。</p> <p>協力医の24時間緊急対応があり、利用者、家族はもちろん、職員も安心感を覚え、看取りの受け入れも整えられている。年3回開催される家族会には参加者も多く、家族との連携強化も図られている。</p> <p>昨年4月に管理者が変わり、新体制のもと職員との対話を重視し、職員の介護レベルの向上を図るため、外部研修にも積極的に参加させている。職員は利用者の体調、気分の変化や顔色を日々観察し、理念にある笑顔で利用者が不安にならないよう、好きなことができるよう、支援に取り組んでいる。管理者を中心として職員間の関係も良好で、今後の取り組みが期待できる事業所である。</p>
--

自己評価および外部評価結果

ユニット名:えびね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を行動指針とする取り組みができるよう、職員会や日々の申し送りの中で話し合い、理念をケアに活かせるよう取り組んでいる。	「共に支え合い笑顔の見える穏やかな生活」という理念を掲げ、職員は、利用者の思いを大切に日々のケアに取り組んでいる。朝礼や合同職員会で理念の話し合いが行われ、ケアへの実践状況を振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加したり、小中学生の訪問を受けたりして、地域との交流を深めている。デイサービス利用者とも交流できている。近隣住民からは、野菜等の差し入れもある。	町内会には加入していないが、利用者は地域の神祭や小学校の運動会、学習発表会などに出かけている。中学生の清掃ボランティアの来訪があり、体験授業の受け入れも行っている。近隣住民からは、野菜などのおすそ分けがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所希望者の家族や、病院の医療相談員、居宅介護支援事業所からの相談などを受けている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	母体法人内部監査や町の実地指導の結果も報告し、会議で出た意見や検討事項は職員会に報告し、対応を検討している。意見に対しては実行できるように取り組み、次の運営推進会議で経過報告をしている。	会議には家族代表、地域住民、行政職員が参加し、事業所からの活動報告に対して活発な意見交換が行なわれている。外部評価結果、目標達成計画も報告されている。議事録は玄関に掲示し、家族には議事録を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議をきっかけに連携が密に図れるようになり、些細なことでも気軽に相談できる関係が築けている。不明点はすぐに電話で確認をとるなどして、サービスの向上につなげている。	運営推進会議で事業所の現況を伝え、適切なアドバイスを受けている。必要なときには行政担当職員に連絡、相談ができ、地域包括支援センターからは入所者の受け入れ状況の確認などがあって、良好な協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体法人全体で取り組んでおり、母体法人研修に参加した職員は、研修内容をスタッフ会で報告している。言葉による拘束もしないよう、拘束感のない言葉がけにも取り組んでいる。日中は施錠せず、自由な生活ができるよう利用者を見守り、寄り添うケアを行っている。	母体法人の研修を通じて、職員は身体拘束をしないケアの理解を深めている。不適切な言葉遣いが見られたときは、その都度注意し合い、改善に努めている。日中は玄関を施錠せず、利用者を見守っている。夜間は安全のため、家族の了解を得て、5名の利用者がコールマットを使用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	母体法人全体で取り組んでおり、研修を受けたり、職員会などで事例を用いて話し合いを行ったりして、利用者の尊厳を支え、虐待のないケアが提供できるように取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	母体法人全体で取り組んでおり、勉強会を受けた職員が伝達者になって職員会で周知をしている。現在、1名の成年後見制度利用者がおり、必要に応じて援助できる体制を確保している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込み時や契約時に、文書を見ながら時間をかけて説明し、質問、疑問を解決できるようにして、同意を得ている。いつでも相談を受け付けている。また、契約改定時にも同様に説明して、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年3回開催し、苦情や要望はないか確認している。家族だけで話し合う場も設けている。苦情は事業所にとって宝と考え、改善するように取り組んでいる。家族会で出た問題は職員会、運営推進会議でも取り上げ、話し合いをしている。	年3回家族会を開催し、家族同士の話し合いも和気あいあいと行われている。事業所春祭りでは運営の工夫も家族から提案され、バザーの出品や設営、後片付けを家族が職員と一緒にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や、職員会、毎日のミーティングなどで職員の意見を聞き、行事や業務改善に反映できるよう取り組んでいる。	管理者は業務内容について見直しをするにあたり、職員から話を聞いて改善につなげている。職員会では、日頃のケア実施上困っていることを挙げ、その原因を全員で話し合って改善し、一週間後には成果を確認している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた母体法人の勉強会へ参加させるほか、年2回の人事考課を行い、向上心が持てるよう働きかけている。個別面談を行って、一人でストレス抱え込まないように支援している。また、法人内にも相談窓口を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で多くの研修を設け、受講できるように取り組み、実務者研修や介護福祉士受験対策講座も開き資格取得や職員育成に向け取り組んでいる。年間一人1回は内外の研修へ参加できるよう勤務調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	母体法人内の他事業所とは、毎月勉強会を行っている。外部研修にも積極的に参加して、情報交換している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ず面接を行い、本人の不安を軽減するよう努めている。待機期間中も相談を受けたり、訪問するなどして、信頼関係が構築できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の介護不安や状況をよく聞き取り、把握して、気軽に相談ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域包括支援センターや居宅支援事業者などを通じての入所相談が多く、緊急性がある場合は、法人内外の施設と連絡調整して、迅速な対応をしている。また、町にも困っている人の相談、受け入れをしてもらえるように働きかけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の言動や行動からその思いを探り、根本にある喜びや不安などを理解するよう努めている。また、一緒に生活することで、職員が利用者から教えられることも多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも、可能な限り利用者の生活に関わってもらえるようにしている。家族ができることを申し出てもらうことも多く、事業所と家族が協力関係を築き、ともに利用者の人生を支えるように取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途切れないよう、友人、知人に訪問してもらったり、理美容店の利用、地域の行事への参加などの機会をつくって、利用者の馴染みの継続を支援している。	隣接するデイサービスセンターの知り合いの利用者との交流もあり、友人の訪問があったり、馴染みの店に買い物に出かけるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。自宅周辺にドライブにも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できないところはできる人が補い、お互いに協力し合って生活が出来るよう、一緒に過ごせる環境や場面をつくっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から次の施設への入所相談を受けたりして、利用者退所後も継続的な関係を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者がくつろいでいる時間や入浴時に希望を聞くようにしている。意思疎通の困難な利用者は、表情から汲み取ったり、家族から情報を得ている。	利用者と日々関わる中での行動や表情、会話などから利用者の思いや意向の把握に努めている。個々の職員の気付きなどは、業務日誌や個別の申し送り事項に記録しているが、職員は個別記録を逐一見なければ把握ができず、情報共有が迅速に行えない。	利用者との日々の関わりの中で新たに分かった趣味や好み、特技などを追加事項として書き加えていき、一目で分かるような記録方法工夫し、職員全員の情報共有が容易にできるようにすることを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、入所前から関わっていた関係者から本人の生活歴やサービスの利用状況を聞きとり、職員間で共有するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを観察し、日々の行動や小さな動作から本人の全体像を把握して、本人ができることを見出せるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の思いを日々把握し、家族の意向は面会時などに聞いて、全職員でモニタリングを実施している。また、個別に担当者を決め、利用者の状況をより詳細に把握して、介護計画の充実に取り組んでいる。	利用者と家族の意向、職員の気付きをもとに、担当職員、管理者、計画作成担当者で話し合い、現状に即した介護計画が作成されている。モニタリングでは、ケアプランの項目毎に毎日チェック記録がされ、3ヶ月毎、また、利用者の状況変化時に職員全員で評価して、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実践状況や職員の気づきなどを個人記録に記載し、職員間で共有することで、日々のケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かして、本人、家族が安心して生活できるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議をきっかけに地域との関係も密接になり、地域ボランティア、民生委員、自主防災組織などと協力しながら、行事や防災訓練が実施できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	本人、家族の了解を得て、利用者全員が協力医をかかりつけ医としており、月2回の往診以外にも、必要な受診を支援している。専門医の受診もできるよう、支援している。	入所時に本人、家族の同意を得て、全員が協力医をかかりつけ医としている。月2回の往診と、週2回の訪問看護で健康をチェックしている。専門医の受診は必要に応じて職員が同行し、受診結果は家族に連絡している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師には小さなことでも気軽に相談でき、医療機関との連携もとれて、適切な看護、医療機関受診ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院の際は、職員が面会に行き、家族や医療機関と情報交換しながら、速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針に沿って事業所で対応できるケアについて家族に説明し、同意を得ている。緊急時には協力医の往診もあり、母体法人内の訪問看護の協力も得ている。職員は看取りの研修会にも参加し、体制整備を図っている。	利用者重度化の際には、家族の要望に沿って家族、医師、管理者で対応方針が検討され、協力医や母体法人訪問看護との連携もあり、看取りまで支援できる体制にある。管理者は母体法人の看取り研修に参加し、伝達研修も行っている。これまで2件の看取り実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は研修に参加し、緊急時の対応方法を身に付けたり、事業所内でマニュアルを用いた勉強会、実技訓練を行って、不測の事態にも対応できる実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会を得て、火災、地震の避難訓練を年3回以上実施している。その他、風水害なども含めて自主訓練を行っている。避難訓練では地域住民にも声をかけ、協力を得ている。	隣接のデイサービスセンターと合同で避難訓練を年3回実施し、1回は消防署の指導を受け、他の2回は、夜間想定も含めた自主訓練を行っている。地域住民の参加も得て、利用者避難に協力してもらっている。非常用の食料、水などは、3日分を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシー保護について取り組み、職員会でもプライバシーや尊厳を損ねるような声かけをしないように話し合っており、徹底している。	不適切な行動や言葉遣いなどがあれば、管理者がその場で声掛けをしている。自分がされたらどう思うか振り返り、朝礼時や職員会などで話し合っている。職員には、利用者のプライバシーを外部には決して漏らさないよう、周知徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢を提案し、簡単に意思表示ができるように工夫するなど、利用者に自己決定をしてもらうことを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活のペースを大切にし、畑仕事や散歩など、希望に沿ってやりたいことをやらしてもらえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には本人の意向で決めており、見守って支援が必要な場合に職員が手伝うようにしている。自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えて、本人の気持ちに沿った見だしなみ支援を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	母体法人の栄養士による献立だが、利用者の希望や、庭で育った野菜など収穫した旬のものを使用して、献立を変更することもある。利用者は、下準備や後片付けなどを職員と一緒にやっている。	母体法人の栄養士の基本メニューに基づき、食材は地域の業者から宅配されている。誕生日会では利用者の好物をメニューとするほか、希望のモーニングを作ったり、旬の物を使用して献立を変更することもある。利用者は、できることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや水分摂取量をチェックし、摂取量が少ない利用者には、捕食や嗜好の物で水分補給を行っている。また、母体法人の管理栄養士とも相談して、食の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔体操や毎食後の口腔ケアを行い、口腔の衛生保持に努めている。職員は、見守りつつ本人に合わせた介助をするようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁の有無に関わらず、日中はトイレ誘導を基本としている。個々の排泄パターンを把握して、職員が見守りながら、トイレでの排泄ができるよう支援している。	排泄チェック表から利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、食事前や利用者の動きなどから声掛けをし、トイレ誘導している。2名が、夜間のみオムツを使用している。布パンツ使用への自立支援にも取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や家事を通じて体を動かす機会を設け、食事や水分摂取量にも留意しながら、自然な排泄ができるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望に沿って、体調に留意しながら入浴支援をしている。入浴拒否のある利用者も、時間や日程の変更など行い、無理なく入浴できるよう支援している。	夏場は毎日シャワー浴をしている。2日に一度の入浴が多いが、利用者が希望すれば毎日でも入浴できるよう準備されている。現在は入浴拒否の利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は日光浴や活動を促し、生活のリズムを整え、眠れないときにはお茶などを提供しながら話を聞き、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服薬ファイルを作成し、職員は副作用などについても理解して、適切な服薬支援ができるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりのできることを把握し、個々に応じた役割や楽しみが持て、生きがいにつながるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、毎日事業所周辺を散歩している。気候の良い時期にはドライブに出かけており、歩行困難な利用者も一緒に外出している。	一日1回は外気浴をし、庭でのラジオ体操、リハビリ体操をして、散歩することが日課になっている。天気の悪い日には、体操は室内で行っている。季節の花見や外食、ドライブ、買い物同行などを行い、月1回は外出できるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所が金銭管理しているが、買物や外出時には、本人が直接支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話ができる利用者は家族に連絡し、話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花壇には季節の花を植えたり、壁には利用者の似顔絵や職員の顔写真を飾り、暖かい雰囲気を出す工夫をしている。また、ソファやベンチを置き、思い思いにくつろげるようにもしている。	掲示板には今日の日付、食事メニューや職員の顔写真が貼られている。玄関入口に置かれたベンチやホールのソファでは、利用者が思い思いにくつろいでおり、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の外や廊下や庭に木製ベンチを置き、いつでもどこでも座って会話ができるよう、くつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していたダンスやテレビを置き、好みの人形や花を飾ったりしている。壁には孫の写真や手紙、小学生訪問時のときに書いた利用者の似顔絵を貼るなど、利用者一人ひとりが居心地よく過ごせる工夫をしている。	収納チェストや整理ダンスが置かれ、居室の清掃や衣類の整理整頓も行き届いている。自分の使い慣れた馴染みのものが持参され、壁には家族、孫の結婚写真、息子が書いた水彩画、好きな猫の写真等が貼られ、それぞれの利用者の思いが感じられる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全確保をしながら、自立した生活が送れるように環境を整えている。		

ユニット名:

えびね

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名：やまがら

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を行動指針とする取り組みができるよう、職員会や日々の申し送りの中で話し合い、理念をケアに活かせるよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加したり、小中学生の訪問を受けたりして、地域との交流を深めている。デイサービス利用者とも交流できている。近隣住民からは、野菜等の差し入れもある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所希望者の家族や、病院の医療相談員、居宅介護支援事業所からの相談などを受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	母体法人内部監査や町の実地指導の結果も報告し、会議で出た意見や検討事項は職員会に報告し、対応を検討している。意見に対しては実行できるように取り組み、次の運営推進会議で経過報告をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議をきっかけに連携が密に図れるようになり、些細なことでも気軽に相談できる関係が築けている。不明点はすぐに電話で確認をとるなどして、サービスの向上につなげている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体法人全体で取り組んでおり、母体法人研修に参加した職員は、研修内容をスタッフ会で報告している。言葉による拘束もしないよう、拘束感のない言葉がけにも取り組んでいる。日中は施錠せず、自由な生活ができるよう利用者を見守り、寄り添うケアを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	母体法人全体で取り組んでおり、研修を受けたり、職員会などで事例を用いて話し合いを行ったりして、利用者の尊厳を支え、虐待のないケアが提供できるように取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	母体法人全体で取り組んでおり、勉強会を受けた職員が伝達者になって職員会で周知をしている。現在、1名の成年後見制度利用者がおり、必要に応じて援助できる体制を確保している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込み時や契約時に、文書を見ながら時間をかけて説明し、質問、疑問を解決できるようにして、同意を得ている。いつでも相談を受け付けている。また、契約改定時にも同様に説明して、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年3回開催し、苦情や要望はないか確認している。家族だけで話し合う場も設けている。苦情は事業所にとって宝と考え、改善するように取り組んでいる。家族会で出た問題は職員会、運営推進会議でも取り上げ、話し合いをしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や、職員会、毎日のミーティングなどで職員の意見を聞き、行事や業務改善に反映できるよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた母体法人の勉強会へ参加させるほか、年2回の人事考課を行い、向上心が持てるよう働きかけている。個別面談を行って、一人でストレス抱え込まないように支援している。また、法人内にも相談窓口を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で多くの研修を設け、受講できるように取り組み、実務者研修や介護福祉士受験対策講座も開き資格取得や職員育成に向け取り組んでいる。年間一人1回は内外の研修へ参加できるよう勤務調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	母体法人内の他事業所とは、毎月勉強会を行っている。外部研修にも積極的に参加して、情報交換している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ず面接を行い、本人の不安を軽減するよう努めている。待機期間中も相談を受けたり、訪問するなどして、信頼関係が構築できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の介護不安や状況をよく聞き取り、把握して、気軽に相談ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域包括支援センターや居宅支援事業者などを通じての入所相談が多く、緊急性がある場合は、法人内外の施設と連絡調整して、迅速な対応をしている。また、町にも困っている人の相談、受け入れをしてもらえるように働きかけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の言動や行動からその思いを探り、根本にある喜びや不安などを理解するよう努めている。また、一緒に生活することで、職員が利用者から教えられることも多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族にも、可能な限り利用者の生活に関わってもらえるようにしている。家族ができることを申し出てもらうことも多く、事業所と家族が協力関係を築き、ともに利用者の人生を支えるように取り組んでいる。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの人との関係が途切れないよう、友人、知人に訪問してもらったり、理美容店の利用、地域の行事への参加などの機会をつくって、利用者の馴染みの継続を支援している。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>できないところはできる人が補い、お互いに協力し合って生活が出来るよう、一緒に過ごせる環境や場面をつくっている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>家族から次の施設への入所相談を受けたりして、利用者退所後も継続的な関係を保っている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、利用者がくつろいでいる時間や入浴時に希望を聞くようにしている。意思疎通の困難な利用者は、表情から汲み取ったり、家族から情報を得ている。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人、家族、入所前から関わっていた関係者から本人の生活歴やサービスの利用状況を聞きとり、職員間で共有するように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを観察し、日々の行動や小さな動作から本人の全体像を把握して、本人ができることを見出せるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の思いを日々把握し、家族の意向は面会時などに聞いて、全職員でモニタリングを実施している。また、個別に担当者を決め、利用者の状況をより詳細に把握して、介護計画の充実に取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実践状況や職員の気づきなどを個人記録に記載し、職員間で共有することで、日々のケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かして、本人、家族が安心して生活できるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議をきっかけに地域との関係も密接になり、地域ボランティア、民生委員、自主防災組織などと協力しながら、行事や防災訓練が実施できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の了解を得て、利用者全員が協力医をかかりつけ医としており、月2回の往診以外にも、必要な受診を支援している。専門医の受診もできるよう、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師には小さなことでも気軽に相談でき、医療機関との連携もとれて、適切な看護、医療機関受診ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院の際は、職員が面会に行き、家族や医療機関と情報交換しながら、速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針に沿って事業所に対応できるケアについて家族に説明し、同意を得ている。緊急時には協力医の往診もあり、母体法人内の訪問看護の協力も得ている。職員は看取りの研修会にも参加し、体制整備を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は研修に参加し、緊急時の対応方法を身に付けたり、事業所内でマニュアルを用いた勉強会、実技訓練を行って、不測の事態にも対応できる実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会を得て、火災、地震の避難訓練を年3回以上実施している。その他、風水害なども含めて自主訓練を行っている。避難訓練では地域住民にも声をかけ、協力を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシー保護について取り組み、職員会でもプライバシーや尊厳を損ねるような声かけをしないように話し合って、徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢を提案し、簡単に意思表示ができるように工夫するなど、利用者に自己決定をしてもらうことを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活のペースを大切にし、畑仕事や散歩など、希望に沿ってやりたいことをやらせてもらえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には本人の意向で決めており、見守って支援が必要な場合に職員が手伝うようにしている。自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えて、本人の気持ちに沿った見だしなみ支援を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	母体法人の栄養士による献立だが、利用者の希望や、庭で育った野菜など収穫した旬のものを使用して、献立を変更することもある。利用者は、下準備や後片付けなどを職員と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや水分摂取量をチェックし、摂取量が少ない利用者には、捕食や嗜好の物で水分補給を行っている。また、母体法人の管理栄養士とも相談して、食の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔体操や毎食後の口腔ケアを行い、口腔の衛生保持に努めている。職員は、見守りつつ本人に合わせた介助をするようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁の有無に関わらず、日中はトイレ誘導を基本としている。個々の排泄パターンを把握して、職員が見守りながら、トイレでの排泄ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や家事を通じて体を動かす機会を設け、食事や水分摂取量にも留意しながら、自然な排泄ができるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望に沿って、体調に留意しながら入浴支援をしている。入浴拒否のある利用者も、時間や日程の変更など行い、無理なく入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は日光浴や活動を促し、生活のリズムを整え、眠れないときにはお茶などを提供しながら話を聞き、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服薬ファイルを作成し、職員は副作用などについても理解して、適切な服薬支援ができるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりのできることを把握し、個々に応じた役割や楽しみが持て、生きがいにつながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は、毎日事業所周辺を散歩している。気候の良い時期にはドライブに出かけており、歩行困難な利用者も一緒に外出している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所が金銭管理しているが、買物や外出時には、本人が直接支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話ができる利用者は家族に連絡し、話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花壇には季節の花を植えたり、壁には利用者の似顔絵や職員の顔写真を飾り、暖かい雰囲気を出す工夫をしている。また、ソファやベンチを置き、思い思いにくつろげるようにもしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の外や廊下や庭に木製ベンチを置き、いつでもどこでも座って会話ができるよう、くつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していたタンスやテレビを置き、好みの人形や花を飾ったりしている。壁には孫の写真や手紙、小学生訪問時のときに書いた利用者の似顔絵を貼るなど、利用者一人ひとりが居心地よく過ごせる工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全確保をしながら、自立した生活が送れるように環境を整えている。		

ユニット名:

やまがら

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				